

問題解決の能力等に関する調査

平成20年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」
 (東京都教育委員会 平成21年6月) から見た結果の分析及び指導改善のポイント

評価の観点	東京都	江戸川区	平井西小
問題を発見する力	81.5%	81.3%	98.3%
見通す力	59.6%	58.5%	62.1%
適用・応用する力	54.5%	52.2%	56.5%
意思決定する力	50.6%	47.5%	39.7%
表現する力	72.1%	70.7%	74.1%
総合	60.2%	58.3%	62.5%

結果の分析	指導方法改善のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 全体の平均正答率は62.5%であり、都の平均をやや上回っている。出題数8問中、正答率が70%を下回る問題は6問ある。 これは、都・江戸川区と同様の傾向であり、特に、意思決定する力について課題があるといえる。 「問題を発見する力」は1問の出題で、2つの資料を比べて問題を見出す設問である。 平均正答率は98.3%である。たいへん良好である。 「見通す力」は1問の出題で、バスの料金について考える場面において、割引制度によって料金がどうなるかの見通しを問う設問である。 平均正答率は62.1%である。誤答は、割引制度の内容を理解して見通しをもつことができなかったと考えられる。 都や区の平均よりよい結果であるが、やや課題がある。 「適用・応用する力」は4問の出題で、理科、国語、社会、算数で学習したことを活用して問題を解決する設問である。平均正答率は56.5%であり、全問とも正答率が70%を下回った。 誤答は、都や区と同様の傾向の傾向にある。試した結果を考察する力や話し合いのルールや等高線の見方の理解不足、単位の活用を判断できないことによると考えられる。この力については、課題がある。 「意思決定する力」は1問の出題で、複数の条件を資料から読み取り、それらの条件にあった事柄を考える設問である。平均正答率は、39.7%である。 誤答は、条件相互の関係を十分に検討しなかったことや時間の間隔に関わる条件を見落とししていたことによると考えられる。 都や区の平均より低い結果である。課題があるといえる。 「表現する力」は1問の出題で、事実を基にして状況を説明する内容を文章で、適切に表現する設問である。平均正答率は74.1%である。 誤答は、物事を説明する場面で最初に伝える必要があることについては表現できるが、順序や文章を構成する力に課題があることが考えられる。 都や区の平均よりよい結果である。おおむね良好である。 	<p>〈国語〉</p> <p>○「読むこと」を通して、言葉を手掛かりに、論理的思考力や想像力を育成するための指導の改善・充実を図る 読んだ文章の意味を正しく理解し、目的に応じて自分の思いや考えを表現する指導を行う。1時間の中で「読むこと」「話すこと・聞くこと」を密接に関連させた学習が展開できるよう指導の工夫を行う。読んだことをもとに話し合う経験を十分に積み、自分の考えを広げたり深めたりさせるとともに、他教科や実生活に生きて働く力が付くよう、計画的な指導を行う。また、読書を通して考えを広げたり深めたりする態度を養う。</p> <p>〈算数〉</p> <p>○情報を整理して、問題を解決する指導の改善・充実を図る ①目的を明確にし、それに沿った資料を収集する、②資料を整理し、表やグラフに表して資料の特徴や傾向を読み取る、③特徴や傾向に着目して事柄を判断したり、その理由を説明したりするといった一連の活動を意図的に取り入れる。</p> <p>〈社会〉</p> <p>○方位や等高線の見方について理解させるための指導の工夫を図る 方位については、社会的事象を観察、調査したことを白地図に記入する際に理解し活用できるように指導する。また、等高線の見方については、「等高線が混んでいる所は傾きが急であること」や「等高線の間が広い所は傾きが穏やかであること」のイメージがもてるように立体模型等の活用を通して指導するなど、工夫していく。</p> <p>〈理科〉</p> <p>○観察・実験の結果を考察する学習の改善・充実を図る 児童一人一人が観察・実験から明らかになる範囲を明確にし、どのように考察を行い、表現するとよいか教師が適切に指導する。学習問題と結果を関連付けて考察することによって、学習問題に正対した結論を導くようにすることや、考察によって得られた結論をどのように文章や図などに表現したらよいかなどについて、教師が意図的・計画的に指導を行う。</p> <p>〈各教科や総合的な学習の時間の学習において〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 必要な情報を読み取って活用する学習の充実を図る 例えば、第5学年社会科の「我が国の主な食料生産」の学習において、農作物や食料生産物の分布図や土地利用図、農作物の生産量のグラフから、それぞれの傾向や特徴を読み取る活動やそれぞれの図やグラフを比較したり、関連付けたりする活動を設定する。 児童自らが活動の計画を立てる学習の充実を図る 例えば、中学年の特別活動における係活動では、児童自らが創意工夫しながら活動の計画が立てられるようにする。係活動の目的を明確にし、それぞれの考えや願いを検討し、児童が主体的に取り組めるように指導していく。 結果の予想についての情報交換を行う学習の改善・充実を図る 情報交換を行うことによって、児童は、自分の予想の立て方やその妥当性について振り返ることができるとともに、友達の予想を聞いて、友達の良いところを学ぶこともできる。この経験を積み重ねていく。 説明する内容を整理する指導の改善・充実を図る 相手に物事を説明する際には、相手の立場や状況、目的に応じて、説明する内容を整理して表現することが大切である。例えば、社会科の学習で調べたことをまとめる場面において、「事実」と「感じたこと・考えたこと」を区別しているかどうかについて確かめる活動を設定する。